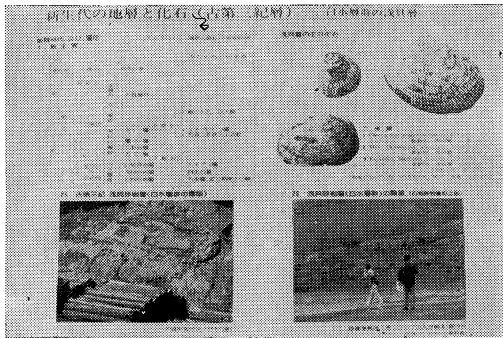


8~10	7	6	5	4 (講師) 根本修行先生 (三阪小)	3 (講師) 薄葉満氏
55.12/1~3/15	55.4~10	55.10/36	55.10/19	55.9/28	55.8/31
<p>○資料整理、印刷、製本 (A六判、四十八ページ、カラー写真九枚貼りつけ、説明書き、ひもとじ累加できるようにした。 ※ 柳沢博士の監修を受ける。</p>	<p>○その他いわきの天然記念物見学 (シダレモミジ、ナギ、カリン)</p>	<p>○暖帯林及びその他の植物調査 ①豊間、波立海岸 (スタジイ、トベラ、ヤブツバキ、ツワブキ、クスノキ)</p>	<p>○海水の微生物採集と顕微鏡検査 ①四倉港のプランクトン (焼脚類、欄脚類、腹足類、フジツボ珪藻類、珪藻類)</p>	<p>○新生代の地層巡検 (古い順) ①石城砂岩層(湯本) ②浅貝層(内郷堀坂) ③白坂層(共立病院裏) ④五安層(湯本二中) ⑤水野谷層 (福島高専近く) ⑥亀ノ尾層 (福島高専近く) ⑦本谷層(平二中近く) ⑧三沢層(平工高校入口) ⑨中山層(上高久) ⑩下高久層(豊間海岸) ⑪多賀層(四倉高校)</p>	<p>○植物分布調査及び探訪 ①シダ類の北限調査 (ウラジロ、コシダ、コバノヒノキシダ、ホラシノブ、ハカタシダ、コモチシダ)</p>



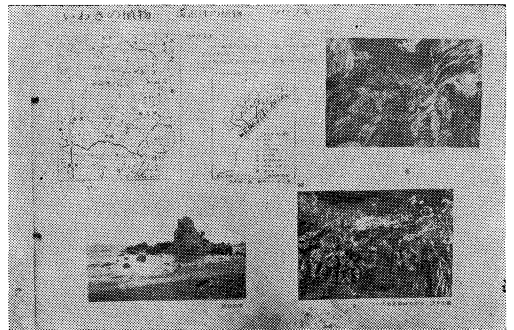
新生代の地層—浅貝層と化石—

五 研究を終わっての「会員の声」

● これまでの研究は勤務校周辺に限られ、いわき市全体の自然を調べることのできないままに、過ごしてきたが今回の同好会に参加して、広い視野で「いわきの自然」を知ることができて大変役立った。

● 教材化を目標に研修してきたが、むしろ自身の研修そのものであり、生徒たちに自然を探究させる動機づけとして非常に役立った。

● 受験指導の方策ばかり話題になっている今日、同好の士が共通の目的意識を持って研究し、理科教師の本質を語り合える仲間ができたことは、非常



いわきの植物—海浜性の植物・ツワブキ—

に心強うらしい。

● 他に職業を持ちながら、生涯を通して、理科の分野で専門的な研究を深めておられる講師の先生がたの指導に接し大きな、刺激と感動を受けた。

● 学習させたい素材を地域の実態に即して、時期や場所などを十分生かした年間指導計画を作成するのに役立った。

● 私自身の足で直接経験したので野外学習をどのように組み立てて行けばよいかについて多くの示唆を得た。

● 講師の先生がたや、同好会の会員と親睦を深め、楽しい雰囲気の中で研究できた。

● 地学面の研修は系統的にすめられ、ある程度理解できたので、今後は

まだ研究不足の生物分野について研究を進めたい。

六 おわりに

いわきの各地を探究し、研究の成果を教材化したとはいえ、ほんの教歩を歩き出したに過ぎない。「もっと歩いてみたい。触れてみたい」という意欲で一杯である。

「教える者は、教える前に調べなければならぬ」ということを肝に銘じ前進して行きたい。「いわき民報」一九八一年六月八日付にトップ記事としてわれわれの研究が採録され、多くの反響を呼ぶことができたのも、会員一同の大きなよろこびであり、新たな研究の励みともなっている。

◆ 今後は、昨年度の研究が主根になり本年度は新たに支根である生物分野に焦点を絞って研究を進めて行きたい。

尚、昭和五十五年度の同好会メンバーは次のとおりである。

安戸昭雄(小川中)、赤木鎮男(四倉中)、香野輝雄(湯本三中・現小川中)、谷田部俊文(久之浜中)、山内正次(豊間中)、山口徹(草野中)、只野勇(平一中)、大和田俊六(赤井中)、水野嵩(小名浜一中)、佐々木達夫(湯本二中・現桶売中)